

原台の風

令和2年度 第12号(通算316号)

—佐西学校だより—

令和3年3月24日発行

〔発行責任者〕

長崎県立佐世保西高等学校長 宅島 健司

悠々として急げ

校長 宅島 健司

この言葉は、ラテン語の「Festina lente(フェスティナ・レンテ。直訳すると「ゆっくり急げ」。急がば回れ、良い結果に早く到るためにはゆっくり行くのがいい、というような意味)を、コピーライターの先駆者であり、小説家の開高 健が「悠々として急げ」と意訳(アレンジ)したものです。

「ゆっくり」と「急ぐ」は相反する言葉で、同時に実現することは論理的にはあり得ない矛盾することになります。さて、

中国の六朝時代東晋の詩人陶潜(陶淵明)の漢詩(五言絶句)

盛年重ねて来たらず

若く元気な時は二度とやって来ない

一日再び晨(あした)なり難し

一日のうちで朝は二度とやって来ない

時に及んで當(まさ)に勉励すべし

よい時機を逃さずに務め励みなさい

歲月人を待たず

年月は人を待って来ない

簡潔な漢詩ですが、その通りの真実を伝えているように思います。定年退職の今になって、今だから、この漢詩の意味がしみじみとよく分かります。

また、アメリカ合衆国建国の祖ベンジャミン・フランクリンに、「時は金なり」という言葉があります。ご存知「Time is money」です。意味は「時間はお金と同じように貴重なものなので、無駄に過ごすことなく有効に活用しよう。」です。時間を浪費することがどれだけ人生を無駄にすることにつながるか、そして、時間を浪費するという選択をするのはいつも自分で、自分の望む人生が実現するのを妨げているのは、周囲の人や環境などではなくて、いつも自分であるということです。時は金なりどころか、お金をいくら出しても時を買うことはできません。時を戻すことはできないのです。

君たちの先輩、55回生の受験がほぼ終了しました。公務員や私立大学・専門学校に進む生徒がいます。自分で選択し自分が決めた進路です。頑張って素敵な職業人や学生になってほしいと思います。本校で一番多い進路希望は国公立大学ですが、今年度は133名が合格しました。推薦等の入試を含め、前期試験までの合格は105名。ということは前期で不合格となり、後期試験に挑戦した生徒が数多くいたということです。その生徒たちを集めて後期試験受験者集会を実施しました。これまではこの行事が一番嫌いでした。その悲しい顔を見るのが辛い、不合格になった生徒の顔を見るとすまないという気持ちになります。思いあがった気持ちかもしれませんが、合格させてやれなかったと思います。しかし、今回はそう思いませんでした。果敢に自分の可能性を賭けて挑戦して失敗し、また挑戦しようとして集まってくれた生徒たちです、むしろ誇りに思えました。ほとんどの人がショックを受けていて、悔しくてたまらない人や辛くてたまらない人もいたでしょう。合格しようと懸命に努力してきたのにと皆残念に思っていたと思います。ほんのわずかな差で不合格になった人もいたでしょう。大学入試も勝負事ですが、負けて悔しくない人なんていません。この世にミスや失敗をしない人もいません。人の評価は失敗そのものではなく、失敗した時にどう対応し、そのことにどう対処するかで決まります。負けや失敗はその人を成長させるものであると思います。私の机上に日めくりカレンダーがあります。日毎に先生と呼ばれる人から生徒や学生に贈られた言葉が記されています。その中に「失敗は恥ずかしいことではない。恥ずべきは、そこから立ち上がらないことだ。」とあります。辛くてももう一度自分を奮立たせて受験に向かった先輩たちを立派だと思います。それでこそ佐世保西高生だと思います。以前の教え子である、大学入試の前期試験の引率を手伝った高校の先輩が後輩たちの不合格の知らせを聞いて、発した言葉です。「厳しいですね。だけど残念だった後輩には、追い込まれた時こそ身を反らしたり、身を引いたりせずに、いい顔して、もう1回挑戦してほしいと思います。」人が失敗して、もう一度挑戦するときの心構えを端的に表現していると思います。

在校生諸君、このように進路実現の勝負を決する時は来ます。部活動においてもそう。その時は必ず来る。人に平等に与えられているもの、それは時間です。Aさんの1日が23時間でBさんの1日が25時間ということはありません。勝負を決する時までの時間を有効にどう使うかにかかっています。だから計画が必要なんです。

さて、お金では買えない、戻すことのできない時間は平等に淡々と一定に流れていきます。表題の言葉は、時間を有効に効率的にするために、前半部分「悠々として」で人としての心の持ち様を表現しています。余裕を持ち、諦めたり焦ったりせず堂々といい顔して「悠々として急げ」

1学年

1年を振り返って

生徒の顔を覚えるのにこんなに時間がかかったことが、未だかつてあったでしょうか。今もなお、世界で猛威を奮っているコロナウィルスは、様々なところに影響があるように思います。

およそ1年前、晴れて本校に入学したのも束の間、自宅学習が余儀なくされた57回生。家庭学習の充実を図るため、Classiを中心とした学習のサポートを実施し、何とか、例年並みの授業進度を確保できました。家庭学習時間量は例年よりも多く、学年全体の成績も比較的良好な成績で推移しています。

部活動の大会や学校行事も中止や規模縮小などの影響がありました。中でも、県下全域で、熱気と感動を生む高総体が中止となり、3年生との交流は体育祭を除いてほとんど無かったのではないのでしょうか。先輩の姿とは、自己の近未来の将来像を描くために、良いお手本となるものですが、先輩の頑張りや、想いは伝わっているでしょうか。

さて、この1年間で、マスク着用、消毒、換気、ソーシャルディスタンスなど、我々の生活にも変化がありました。今後も世界を取り巻く状況がどのように変化していくかは誰にも分かりません。だからと言って、現状や今後の見通しが立たないことを悲観せずに、現在の事実を受け止め、来たる将来のために、今やるべきことを確実にやり、今後の変化にも柔軟に対応できる人になってもらいたいと思っています。

いよいよ57回生も先輩になるときが来ました。まさに「光陰矢の如し」ですね。良いお手本となる姿を入学してくる後輩たちに、見せてやりましょう。57回生の今後の活躍に期待します。

(第1学年主任 萩原 広太)

《4月の行事予定》

4/2	(金)	新入生オリエンテーション・SAKURA フェス(午前)
8	(木)	大掃除 新任式 前期始業式 第58回入学式 育友会入会式
9	(金)	春季実力テスト(全学年)
12	(金)	春季実力テスト(3年) 新入生研修(~14日)
14	(水)	各種委員会(全学年) 内科検診(午後)
15	(木)	尿検診(一次) 内科検診(午後) 部活動編成
16	(金)	尿検診(一次予備日) 心臓検診(1年)
20	(火)	結核検診(1年)
21	(水)	内科検診(午後)
22	(木)	内科検診(午後)
26	(月)	新体力テスト(1年)
27	(火)	歓迎行事

2学年 MY PROJECT AWARD2020 九州 Summit

去る2月21日に「MY PROJECT AWARD 2020 九州 Summit」がオンラインで開催されました。前号でお知らせした通り本校からは3チームが出場しましたが、そのうちの47班(テーマ「Bridge to our smile～子育てしたいと思える佐世保を目指して～」)のリーダー 2年4組大曲陽菜に感想を聞きました。

私たちは1年間共に研究・活動してきたからこそ、新しいアクションを考える際に無意識に似たような方向で考えてしまい、凝り固まったものになってしまっているのではないかと感じていました。今回サミットに参加していなければ各地の高校生と意見を交換できる機会はきっとなかっただろうし、何より私たちの研究を知らない第三者の視点から、意見を突いた意見を得ることもできなかつたと思います。また、興味のある事柄以外のことについても学ぶことができ、とても充実した1日となりました。今回の経験を決して無駄にしないよう、これからの生活に生かしていきたいと思いました。



3学年

佐世保西高第55回生の皆さん、卒業おめでとうございます。入試改革の初年度で様々な対応が求められた3年間でした。それに加え、新型コロナウイルスの蔓延という未知の出来事に遭遇し、辛く悔しい思いも数多く経験しました。それを、全員で乗り越えてくれたその力に、私たちが元気で勇気をもらいました。これからのVUCAの時代を生きる皆さんが、これまで以上に先の見えない状況下でも、主体的に、前向きに、戦ってくれることを願っています。

3年間ご支援いただきました保護者の皆様、地域の方々、55回生に関わってくださった全ての方々、本当にありがとうございました。(第3学年主任 峯 悦子)

<第55回卒業生代表 永安名月さんの答辞> (全文)

「人間は一生のうちに、出逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」教育者である森信三さんの言葉です。人は人生の一番良いタイミングで、出逢うべき人に出逢うのだという意味です。

私たち55回生は、本日、人生の大きな節目を迎えました。この佐世保西高校での出会いに、私は今思いを馳せています。

たくさんの時間を共にした友人たちや部活動の仲間。嬉しいときは、自分のことのように一緒に喜んでくれた。思うようにいかず、悩み苦しんでいたときは、たくさん励ましてくれた。そんな一つ一つの優しさが、いつも私を支えてくれました。自分の目標に向かって最後まで走り続けられたのは、共に頑張っている仲間の姿があったからでした。本当にありがとう。

後輩たち。今まで私たちについてきてくれてありがとう。放課後遅くまで懸命に努力している姿をたくさん見してきました。去年私が取れなかった賞も、皆さんならきっと取れると信じています。

私たちを導いてくださった先生方。私の人生を大きく変えてくれた先生方に出逢いました。怒ると鬼のように怖いけど、生徒一人一人のことをよく考えて、常に愛情をもって接してくれた担任の先生。進路に悩んでいた時に、私の可能性を信じて、私の背中を押してくださいました。大好きだったストックノート。毎回ノートの片隅に添えてくれた先生の何気ない一言が、3年間ずっと私の支えでした。

好きなことを追求することの楽しさを教えて下さった顧問の先生。人前で話すことが苦手で、自信がなかった私に、絵を描くことで思いを誰かに伝えられる喜びを教えて下さいました。いつも前向きで、自分の作品と真摯に向き合う先生の姿が、私をいつも励ましてくれました。

会うたびに、笑顔で声をかけてくれた先生方、小さな悩みにも全力で向き合ってくれた先生方、そんな佐世保西高の先生方には、感謝しても感謝しきれない思いです。ありがとうございました。

そして、誰よりも近くで私たちの成長を見守ってくれた家族。18年間、私たちをここまで大きく育ててくれました。この場を借りて感謝の気持ちを伝えさせてください。

お父さん、毎日遅くまでお仕事お疲れさま。疲れているはずなのに、いつも笑顔でたくさん話を聞いてくれるお父さんを見ると、元気をもらえます。たまにはゆっくり休んでね。

お母さん、3年間朝早くからお弁当を作ってくれてありがとう。毎日の家事で疲れたお母さんを見ると、もっとたくさん手伝いをすればよかったなと思います。

これからはたくさん親孝行させてください。

たくさんお世話してもらって、たくさん怒られて、けんかすることもあったけれど、それは確かに私を成長させてくれました。家族を過ごした18年間は私の一番の宝物です。本当にありがとう。

冒頭の言葉には続きがあります。

「縁は求めざるに生ぜず。内に求める心無くんば、たとえその人、面前にありとも、ついに縁は生ずるに至らずと知るべし。」

大切な出逢いがあったとしても、それを求めようとしなければ、その出逢いは意味を失ってしまうということです。

2020年3月。ちょうど1年前。得体の知れない感染症によって、突如私たちの平穏な日常は奪われました。ひたすら学校に行けない日々が続きました。最後の高総体、最後のコンクール。ずっと目標にしていたものが、計り知れない時間と努力を費やしたものが、何もできないままに消えていきました。

後悔、怒り、絶望、誰にぶつけていいかわからない感情と、先の見えない不安。いろいろな苦しみの中、この一年間をすごしてきました。

でも、そんな苦しみがあったからこそ、当たり前で過ごせること、誰かと出逢えることの大切さに気付きました。

自分の目標を見失いそうになる、自分の存在意義がわからなくなる、そんな瞬間がこれから先、私たちに襲いかかるのかもしれない。ですが、そんな時こそ思い出したいと思います。これまでのたくさんの「出逢い」を。自分を支えてくれる、励ましてくれる、一緒に戦ってくれる、かけがえのない存在がその時もきっとあります。そして、これからのたくさんの出逢いもまた、私たちの人生にとって必然であり、必要であるかけがえのないものということ、皆さん、どうか忘れないでください。

この佐世保西高で過ごしたことを私たちの誇りとし、力強く生き抜くことをお誓いするとともに、われらが母校の、益々のご発展とご活躍を祈念いたします。

主な入賞結果

◎放送部

- 第16回NCCふるさとCM大賞
演技賞 タイトル「佐世保っ子赤ずきん」 1-5 吉富ゆり子

◎その他

- 第66回青少年読書感想文長崎県コンクール
高等学校自由部門 1-6 金子明日美
- 第66回青少年読書感想文全国コンクール
高等学校の部 1-6 金子明日美

